

女子野球タウン(岩手県盛岡市)

きたぎんボールパーク

～全国初！県市共同整備による多目的ボールパーク～

高規格な野球場において、プロ野球一軍公式戦やファーム戦、高校野球岩手大会や野球振興イベントなど、大規模な大会等が開催されている。

また、野球場、屋内練習場ともに、野球のみならず多目的に日常から利用でき、地域活性化、交流推進に寄与する「ボールパーク」として整備し、日常の健康づくりや野球以外のイベントにも活用されている。



R5.4.1オープン

【施設概要】

- ・野球場 2万人収容、全面人工芝
- ・屋内練習場

野球場併設、広さ50m×50m

- ・外構等 駐車場、大型遊具など

【特徴】

- ・県市共同かつPFI方式による整備
- ・プロ野球一軍公式戦の規格に対応
- ・選手エリアに女子トイレ、更衣室完備

女子野球普及の取組

～きたぎんボールパークを核とした大会実績等～

第1回 東北女子野球普及親善試合 ～女子野球の未来を東北から！～

【実施日時】 令和6年10月20日(日)

【会 場】 きたぎんボールパーク

【内 容】 東北出身の高校3年生で構成された「東北女子選抜ドリームフレンズ」対「読売ジャイアンツ女子チーム」の試合及び地元小学生を対象とした野球教室



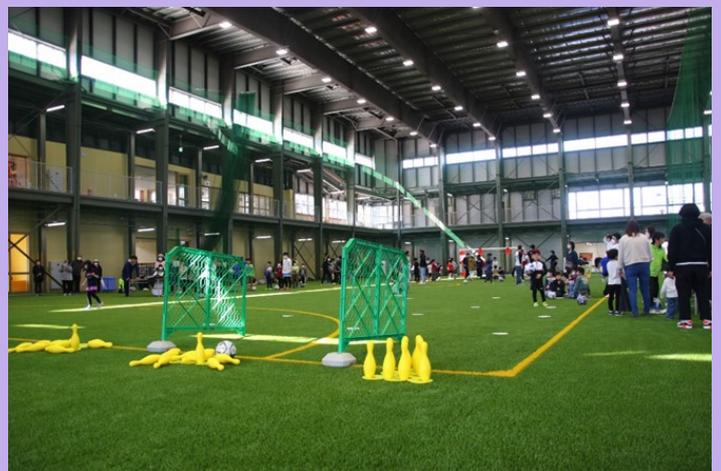
きたぎんボールパーク整備事業

- 1 施設名 いわて盛岡ボールパーク(きたぎんボールパーク)
※令和5年4月1日から5年間のネーミングライツ契約を(株)北日本銀行と締結(年額1,389万円(税抜))
- 2 整備地 盛岡市永井7地割16番地2
盛岡南公園内(盛岡市保有)の未開設区域9.18ha
- 3 事業期間 令和2年3月26日から令和20年3月31日まで
(施設引渡日 令和5年3月31日)
- 4 事業内容
 - (1) 施設整備業務(設計業務、建設業務、工事監理業務)
 - (2) 運営等業務(運営業務、維持管理業務) ※15年間(R5~R19)
 - (3) 事業者の管理運営業務(プロジェクトマネジメント・経営管理業務)
- 5 事業主体 岩手県、盛岡市
- 6 事業方式 民間活力を活用したPFI-BTO方式

きたぎんボールパーク ~憧れに出会い、本物が生まれる~



【施設全景】



【屋内練習場】



【野球場車いす席】



【キッズスタジアム(木製遊具)】

盛岡の見どころ

盛岡城跡公園（岩手公園）



盛岡城跡公園（岩手公園）は、市民の憩う公園として親しまれています。春は桜の名所として、夏はまちの中心に緑の木陰をつくり、秋は見事な紅葉に彩られます。そして、冬は墨絵のような雪景色にすっぽりと包まれ、ライトアップされた石垣が幻想的な冬の夜を演出します。

盛岡市動物公園



1989年に盛岡市の新しい時代を象徴する施設として、岩山の南斜面一帯に広がる動物公園を開設しました。

この特徴は、自然の地形や植生をできるだけ生かしてつくられたことと、自然とふれあいが動物の観察ができること。

また、芝生広場ではピクニックを楽しんだり、遊具で遊ぶこともできる新しいタイプの動物公園です。

盛岡の味と技

わんこそば



先祖から伝わる「おもてなしの心」から生まれた、この地独特の伝統食文化です。宴の席で大勢のお客さまをもてなすために考えられたと伝えられています。一口大の小分けにしたそばを、さまざまな薬味とともにたっぷり味わいます。店によっても違いますが、15杯前後で通常のもりそば1杯分。給仕さんとの掛け合いも楽しい、盛岡ならではの「わんこそば」をぜひご賞味ください。事前の予約をお勧めします。

盛岡じゃじゃ麺



もともとは「炒めみそうどん」という意味の中国東北部の麺を参考に、白龍(ばいろん)の高階實勝さんが屋台から始めた麺料理です。麺と特製みそをよく混ぜ合わせ、好みでおろししょうがや酢、ニンニク、ラー油を加え、食べるほどくせになる味わいです。

麺と具は全部食べ切らずに少しだけ残して、「ちーたんたん(鶏蛋湯)」と注文してください。おいしい卵スープを味わうことができます。みそに工夫を凝らした各店の味をお楽しみください。

盛岡冷麺



朝鮮半島北部出身で日本へ移住した食道園の青木輝人さんの手により盛岡で誕生しました。小麦粉とでんぷんによる強いコシと透き通った麺が特徴。スープは牛骨・鶏肉などを煮込んで味付けされていて、飲み心地良くコクもたっぷりです。キムチの辛さと相性がぴったりです。キムチの量で辛さを調節でき、ゆで卵やキュウリ、季節の果物などが盛り付けられていることで多彩な味になります。各店と製麺業者が努力と工夫を重ねた味をぜひお試しください。

い。

南部鉄器



南部藩に保護され、400年の伝統を受け継いできた南部鉄器。1975年には伝統的工芸品として全国第1号の指定を受けています。伝統ある湯釜や鉄瓶のほか、モダンなクラフトなど現代的なセンスも加えて幅広い支持を得ています。最近では、日本の伝統的工芸品として海外でも高く評価。南部鉄器は厚厚な中にも温かさを感じさせ、インテリアや日用品として愛用されています。

盛岡の祭り

盛岡さんさ踊り(8月1日～4日)



さんさ踊りは藩政時代から受け継がれた踊りで、その起源は「三ツ石伝説」に由来し、今ではすっかり夏のメインイベントとして定着しました。迫力満点の太鼓と軽やかな笛の音に合わせて舞い踊る、盛岡の夏の風物詩です。

平成26年6月29日には、和太鼓同時演奏世界記録に挑戦し、同時演奏3437人という世界記録を達成しました。

祭りの最終日には、「和太鼓同時演奏」の再現「世界一の太鼓パレード」と、誰でも参加できる「大輪踊り」を行い、グランドフィナーレを飾ります。

チャグチャグ馬コ(6月第2土曜日)



毎年6月第2土曜日に開催される「蒼前様」を信仰とするお祭りです。100頭ほどの馬が滝沢市の鬼越蒼前神社から盛岡市の盛岡八幡宮まで約14キロの道のりを行進します。

馬のあでやかな飾り付けとたくさんの鈴が特徴で、歩くたびにチャグチャグと鳴る鈴の音が名称の由来といわれています。

昭和53年には国の「記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財」に選定。平成8年には鈴の音が環境省の「残したい日本の音風景100選」に認定されています。

盛岡秋まつり・山車(9月14日～16日)



山車行事は300年の伝統を誇り、令和6年には岩手県指定無形民俗文化財に指定されています。1台につき200人の若衆が引く絢爛豪華な山車とお囃子の行列が大八車の音をきかせて市内を練り歩き、毎年約10台の山車が参加します。

全ての山車が勢ぞろいする14日の八幡下り、15日の山車大絵巻パレード(夜間パレード)が祭りの見どころです。